

2017年6月1日

報道関係者各位

DIC株式会社

〒103-8233 東京都中央区日本橋 3-7-20

ディーアイシービル

DIC 千葉工場のコージェネレーションシステムを高効率な機種に更新

更なる CO₂ 排出量削減に加えて、停電などの非常時も確実に電力を確保

D I C株式会社（本社：東京都中央区、社長執行役員：中西義之）は、合成樹脂を生産する千葉工場（千葉県市原市）において、既存のコージェネレーションシステム（熱と電力の併給設備、以下 CGS）が老朽化したことを受け、より効率的なエネルギー供給とそれに伴う二酸化炭素（CO₂）削減を目的に、ガスタービン式の最新機種に更新しました。同設備は、非常用発電機の機能も担うため、全停電時でも始動できるという特徴も有しています。なお、稼動は4月から開始しており、これにより、2017年の千葉工場での CO₂ 排出量約3%削減、グループ全体では約0.3%削減（2016年比）を目指します。

CGS は、ガスや重油などを燃料とし、タービンやエンジンによる発電を行うとともに、その際に発生する排熱も有効に活用することで、効率的にエネルギーを供給するシステムの総称です。CGS はエネルギー効率が非常に高いため、省エネルギーや CO₂ の排出量削減に寄与します。

同工場では、1998年に初めて CGS を導入し、全量を購入電力で賄っていたそれ以前よりも、年間の CO₂ 排出量を約 2000t 削減してきました。このたびも、従来同様にスチームでの熱回収が可能なガスタービン式を採用しましたが、エネルギー変換効率（電力・スチーム）が高い最新設備を導入することで、更なる CO₂ 削減を実現しました。また、外部電源がなくとも稼動可能な非常用発電機としての機能は、工場の保安防災用電力をカバーする 3000kWh 以上の能力を有しています。



更新した CGS の最新設備（千葉工場）

当社グループは、『温室効果ガスの排出量（絶対量）を毎年1%削減』を目標に掲げ、CO₂ 削減に取り組んでいます。このたびのようなエネルギー効率に優れた設備に加え、木質バイオマスなどカーボンニュートラルな燃料の導入、また、各事業所での節電の取り組みなどを通してこの目標を達成し、サステナブルな社会の実現に貢献していく所存です。

以上